SUMMARY

No011020

新年最初の週のサマリーです。
新年最初のレポート(no010620)で以下のことを述べました。

『ナンバーオペレーションは奥の深い複合的な理論背景と理論を実践するためのノウハウを含んだ数学のモデルです。数値の変化を予測したり変化の波に乗ろうと技術を駆使したりして頑張る必要はありません。

数モデルの生かし方に"事業"として取り組んで下さい

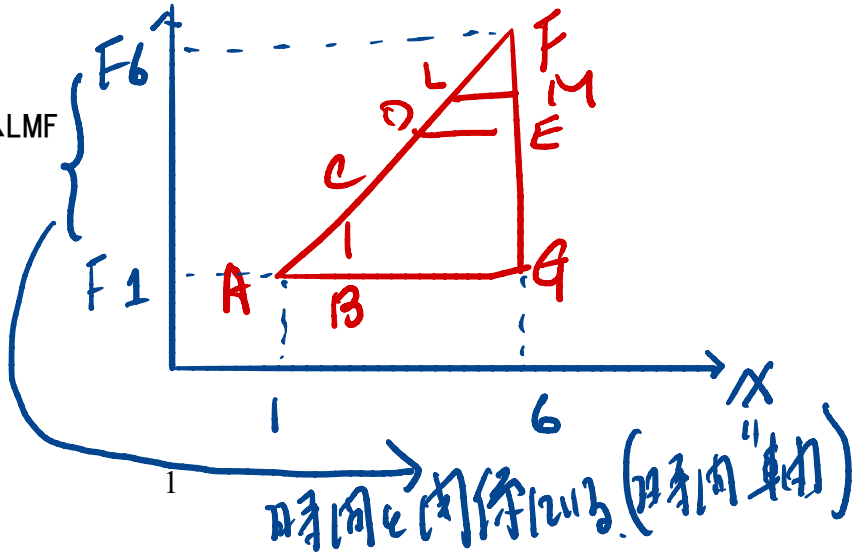
ナンバーオペレーションの原点にいつも戻ることです。
それが"ゲーム"のスタートです。
すなわちは、それはマトリックスの数値構造を意味します。
2020 年は1年を通じて理論と実践を融合させるための事業として"技"を磨き進んでいきたいと思います。』

1年を通じて数学モデルとしてのナンバーオペレーションをさらに極めていきたいと思います。
これまで単に"利益"や"収益"と呼んでいたものを数学的に定義してみましょう。ナンバーオペレーションの目的を数学的に定義するとその目的に向かって何をすべきなのか、どのような技能を身につけるべきかがよりよく見えてきます。

⇐ ナンバーオペレーションで数の合理化の追求が目的と述べます。

今週のポイントをまとめました。
また、今週号のレポートではいくつかのグラフを掲げました。もう一度ご覧ください。

TRIANGLE

トライアングルは単なるイメージ(図)ではありません。
マトリックスの数値構造を幾何学的に捉えたものです。これを見るとナンバーオペレーションが数学的原理をベースにした事業であることが本当に分かると思います。「"相場"ではない。」と幾度も繰り返し述べてきたことの理由や根拠が本当に分かるはずです。それを分からなければならないのです。
トライアングルを見るときはいつでも Y 軸と X 軸の 2 つの軸を意識することです。それぞれの三角形を構成する3つの点を(x, y)のコーディネート(="coordinate";「座標」)としてご覧ください。数値の変化の支配的要因は x 軸(=時間軸)にあります。それによって収益が生み出される原理が見えます。

△ABC、△CNH、△HOD、△DPL、△LMF
△AIH、△CSD、△HVL、△DEF
△AQD、△CTL、△HWF
△ARL、△CUF
△AGF